

諏訪神社

館山市北条館山市北条一九八〇



地域の人たちの憩いの場でもある諏訪神社

祭神
 建御名方神（たけみなかたのみかみ）
 移築社 市杵島神社市杵島姫命（いちきしまひめのみこと）
 合祀社 元八幡神社品陀和気命（ほんだわけのみこと）
 稲荷神社倉稲魂命（うかのみたまのみこと）

由緒
 より諏訪講が作られた記録があり、その後、町の繁栄と大漁、海上安全などの諸願成就の祈願をこめて建立されたと言われます。主祭神は父神が大国主神（大黒様）である建御名方神で、古来より氏子達に限りなく恵みをもたらしてくる「水と狩猟・農耕」の神として、また「武神」としても崇められています。

諏訪神社は地域の人々から「お諏訪様」と呼び親しまれています。約九〇〇坪の境内は悉く整備され、春には桜の花がとともきれいな地区民の憩いの場となっています。境内には市杵島神社（弁財天）や白壁蔵造りの「山車蔵」、水琴窟と呼ばれる神秘的な水の音を奏でるカメを応用した「手水舎」、お諏訪様のおいしい水が頂ける「福寿の井戸」などがあります。



平成9年、境内に移転新築された「山車蔵」

- 例祭日：七月十五日
- 宮司：酒井昌義
- 社紋：諏訪梶
- 本殿：瓦葺神明造
- 拝殿：瓦葺
- 鳥居：明神鳥居
- 境内坪数：約九〇〇坪



福寿の井戸



諏訪神社拝殿



神社額

やわたんまち出祭



鶴谷八幡宮入祭

例年九月の敬老の日直前の土・日（昔は九月十四日・十五日）に執り行われている「やわたんまち（安房国司祭）」に山車を出祭します。「やわたんまち」とは「八幡の祭り」が訛った言い方で、近隣町村十の神社より、安房総社としての鶴谷八幡宮へ神輿を渡御させる大祭です。

六軒町の山車出祭は、祭礼を取り仕切る諏方神社奉賛会を筆頭に祭礼委員会が組織され、町内の総勢三百人以上の人たちで行われます。「やわたんまち」では二日間の山車曳き回しが行われます。二日間とも午前中は、朝早くから町内曳き回しが行われ、初日の夕刻には旧北条村神社である北条神明神社祭典に出祭します。二日目の午前中には数年前から一般の人々を対象に、山車曳き回しの魅力を味わってもらおう

このパンフレットは、地域の方々からの聞き取りを中心し、さまざま文献・史料からの情報を加えて編集しています。内容等につきましてご指摘やご意見等ございましたら、ぜひご連絡いただき、ご教示賜りたくお願いいたします。

味良く力強いお囃子とともに拝殿まで一気につける迫力ある曳き回しが最大の見せ場です。

このとき、全員が伝統の駒六の半纏をしつかりと着ることや、拝殿につけた後にみんなが御賽銭を投げ入れ入祭を祝うことなど、六軒町らしいこだわりを魅せてくれます。

先人たちが築いた伝統と仕来りを守りながら、遊び心のある人たちと花のある山車が相まって、六軒町らしい山車祭が執り行われています。



伝えられる六軒町の御囃子



鶴谷八幡宮入祭時の「百人踊り」



半纏の駒六紋



明治40年に撮影された六軒町の山車（六軒町・辰野氏所蔵）